



西覚寺だより

第7号

年三回発行

春季彼岸会のご案内

中止

内容

お勤め（正信念仏偈六首引き）

御文章『八万の法蔵章』

落語 演目は『宗論』

法話 住職

講題『仏教って何？』

讃歌 『真宗宗歌』（練習もかねて）

落語

三浦充喜さん

三浦さんは、蒲郡在住のアマチュアの方です。住職の大学時代の同級生で、三浦さんは「落語研究会」に在籍されていました。

宗論って
どんな
お話？

ある大店の主人と若旦那にまつわるお話。主人は熱心な浄土真宗の門徒だが、若旦那がキリスト教にハマってしまった事が気に入らない。そんな二人はある日、口論に…

持ち物

経本、お念珠、
門徒式章（お持ちの方）、
御仏前（受付にお渡し下さい）

みなさま、ぜひお参り下さい！！



私たちの生きる意味 なぜ生かされているのか？

第一回／全三回



急にコラムを始めることにしました。ひとつのテーマについて、全三回で書かせて頂こうと思っています。

あるとき、ご門徒さまから、「どうして私たちは生かされているのでしょうか」という問いを頂きました。その時はあまり考えがまとまらなかったのですが、私なりにそのあと改めて考えたことを書かせて頂こうと思います。はじめにお伝えしておきますが、ここに書くことは、あくまで私個人の考えです。みなさまに押し付けるつもりはありません。

まずその問い対して考えたのは、「どうして」という言葉の意味で、二通りにとることができるようになりました。ひとつは、「原因」を問う「どうして」。二つに、「意味・目的」を問う「どうして」、です。「原因」を問うとは、「（なぜあの人は命を終え、）私は生きていくのか」ということです。その問いに対する私なりの考えは、それは「命を終える縁が整わないから」という答えです。逆に言えば、その縁が催されたとき、私たちは命を終えてしまう。それがどのような形か、いつか、それはひとそれぞれ全くわかりませんが、それでもその厳しい現実を訪れる。すべての人に必ず訪れる。それが仏教の説く、「縁起（すべてのものは縁によって起こる）」という根本思想であり、それがこの世の唯一のルールです。でも、その方の問いは、「原因」ではなく、「意味・目的」を問うことにあつたように思います。

次に、「生かされている」についても、二通りに考えることができず。まずひとつは、絶対神のような存在に「まだ生かされている、許されている」、という考え方。この考え方は、キリスト教などにみられる考え方かと思いますが、仏教としてはこういう考え方はしません。なぜなら先述した通り、「この世のすべては縁起でしかない」からです。絶対神のような存在は認めません。仏さまは私たちに対して、生殺与奪をするようなことはありません。

二つに「多くの恩恵を受け、多くの命に支えられ、はかない命を生かされている」という考え方です。仏教は、わたしたちの命に対して、このようにとらえていく方が一般的です。

これらのことをふまえ、ここから先は「私が多くの恩恵やご縁を頂きながら生かされている意味」について、少し考えさせて頂こうと思えます。

（次号へ・4か月後へ）



花まつり 開催!



昨年来、やりたいやります、と口ばかりだった、「花まつり」。今年、西覚寺で開催することとしました。
みなさま、ぜひ！お子様やお孫様を連れて、お参りに来て下さいね！

▼開催日時
5月23日(土) 10時から15時

「花まつり」は、4月8日のお釈迦様のお誕生日をお祝いするおまつりで、昔は色々なお寺で催されていた、日本の古くからの行事の一つです。ここもと、特に近隣のお寺では催すお寺がなくなり、さみしいことと聞いていましたので、思い切って西覚寺が開催することにしました!!あわせて、5月21日は、親鸞聖人のお誕生日でもあるので、そちらのお祝いも兼ねることとしました。

いつもの法要のように、お勤めをして法話を聞いて、といった行事ではなく、開催時間の間でしたら、いつお越しくださっても構いません。お釈迦様のお像に甘茶をかけに来てください。来てくれたお子様には、先着でお菓子や花まつりの冊子をお配りします。また、写経体験なども考えています。当日は、安城駅前が歩行者天国になるイベントも開催しているのです。ご家族でお越し頂いて、どちらのイベントも楽しんでいただけたらと思います。近隣の町内会・子ども会にも声をかける予定です。詳細は、また4月にお送りします!



本山御正忌報恩講 団体参拝



1月15日〜16日 本山御正忌報恩講団体参拝があり、参加して下さった方から感想を頂戴しましたので、掲載させて頂きます。

〽 本願寺御正忌報恩講にお参りして 〽

「私が御正忌報恩講、額田組団体参拝に参加するようになり、十一年になります。最初の団体参拝は、平成二十二年、西覚寺のお庫裏さん(坊守・母)や沢山の方々と一緒にしました。何が何だかわからず行って行った感じでした。その後、西覚寺からの参加者も段々と少なくなり、平成二十八年までは、わたし一人の参加でした。平成二十九年からは現住職も参加、平成三十一年からは他の方の参加も増えてきて嬉しく思います。

報恩講とは、親鸞聖人のご遺徳を偲び、そのご苦勞を通じて阿弥陀様のお救いをあらためて心に深く頂戴していく法要です。

具体的には毎年、一月一五日〜一六日にお参りしていますが、その一五日の夜から一六日の朝まで夜通しで、全国の本願寺派布教使の先生方が交代でお話くださる、通夜布教というものがありません。素晴らしいお話を聴くことができますが、年々無理がきかなくなり、遅い時間まで聴くことはできなくなりましたが、無理せず参加できればいいか!と思うようにしています。一六日の朝六時から晨朝法要があります。それに参加するだけで修行です。しんしんと身体が冷えてくるからです。とにかく寒さ対策をしなければなりません。朝の修行が終われば朝食、その後は非公開文化財などの拝観に連れて行ってください。素敵なランチやお土産などの買い物をしたり、楽しい時間もあります。ぜひとも皆様にも参加して頂きたいと思っております。」

◆ 住職の一言コーナー ◆

さて、2020年はどんな年になるでしょうか。オリンピック、うまくいくといいですね。その時期、私はオリンピックに夢中になっている余裕はないと思います。その前に、新型コロナウイルスが怖いですね、心配ですね。でも、ものごとの本質を見誤ってはいけませんね。怖いのは「ウィルス」で、「ひと(感染者)」でもなければ、「国(国籍)」でもありませんね。差別心は、得体のしれないもの(得体がわからないから根拠は浅薄である)への恐怖心に大いに煽られる、ということを感じているこの頃です。

さてはさて、紙面上に告知するスペースがなくなってしまうので、ここで告知。

「初参式」のご案内を同封しました。お寺への、西覚寺の阿弥陀さまへの、お子様やお孫様の初参りのご縁、とても大切な、とても尊いことです。年齢に応じてご参拝の記念品もお渡ししますので、ぜひ皆さま、御参拝ください。☺



浄土真宗本願寺派
西覚寺

安城市朝日町12-8

☎0566-76-3594

http://saikakuji.sakura.ne.jp/wp/